

今春、本学では新たに11人の教職員を迎えました。新規採用された教職員の皆さんを紹介します。（敬称略）

## よろしくお願ひします！ 新規採用教職員紹介



### ◆荒木 栄一（健康・スポーツ教育研究センター長・特任教授）

熊本大学を退職し、本学の健康・スポーツ教育研究センター長と特任教授を拝命しました。インスリン作用機序をテーマに、糖尿病の診療と研究を行っています。留学の2年半を除きずっと熊本在住です。本学の健康に関する教育と研究に尽力したいと思っています。



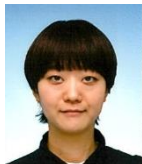
### ◆岡 順子（看護学科教授）

3月に熊本県庁での任を終え、ご縁がありまして着任致しました。前職では災害医療、看護職確保等の医療政策、最後の2年間は管理職として健康づくりの新たな仕掛けへの事業化に携わって参りました。本学の発展に寄与できるよう頑張ってお参りますので、よろしくお願ひいたします。



### ◆伊山 聡子（看護学科助教）

看護学科成人看護学慢性期領域に着任いたしました。大好きな熊本で次世代を担う若者の力になることを目標にチャレンジ精神を忘れず成長していきたいです。皆様どうぞよろしくお願ひいたします。



### ◆早木 幸江（看護学科助教）

佐賀県の肥前精神医療センターで看護師として15年働いておりました。初めて尽くして不安もありますが、臨床で培った諦めないド根性で頑張りたいと思っております。至らない点も多々あるかと思いますが、どうぞよろしくお願ひいたします。



### ◆嶋村 剛史（リハビリテーション学科理学療法学専攻教務嘱託職員）

前職は、地域の病院で臨床と研究に取り組んできました。今後はこれまでの経験を生かして、研究・教育に挑戦していく所存です。新たな環境で刺激をいただき、本学に貢献できるよう努めます。どうぞよろしくお願ひいたします。



### ◆仙波 梨沙（リハビリテーション学科生活機能療法学専攻准教授）

この度、リハビリテーション学科に着任いたしました、仙波梨沙と申します。以前は佐賀の大学や臨床で働いておりました。熊本のことは知らないことが多いので、これからたくさん熊本の魅力を見つけたいと思います。皆様よろしくお願ひいたします。



### ◆浅尾 由美（助産別科准教授）

この度、助産別科に着任いたしました。本学の理念、助産別科の教育目標「生命の尊厳と人権の尊重」の育成に貢献していきたいと思ひます。大学は初めてですので、周囲の方の支援を受けながら、自立できるよう努力して参ります。よろしくお願ひ致します。



### ◆猿樂 南海（事務職員）

事務職員としてお世話になります猿樂南海と申します。3月までは、熊本大学法学部の学生でした。大学祭実行委員会や新入生サポートセンターで活動しておりましたので、本学でも学生生活をサポートできるよう精一杯頑張ります。どうぞよろしくお願ひ致します。

# よろしくお願いします！ 新規採用教職員紹介



## ◆中野 啓史（事務職員）

事務局職員として採用されました中野啓史と申します。前職では、熊本市役所の事務職として勤務しておりました。新たな職種へのチャレンジになりますが、チームの一員として、本学の発展に貢献できるよう頑張ります。よろしくお願い致します。



## ◆中松 洋子（事務職員）

2月より事務職員としてお世話になっております中松と申します。天草出身です。学生の皆さんや先生方により良い環境で勉学・研究に取り組んでいただけるよう尽力して参ります。どうぞよろしくお願いいたします。



## ◆佐藤 文子（アカデミックスキル支援センター外部指導員）

医療法人での人材育成や、キャリアコンサルタントとしての経験を活かし、学生の皆さんがアカデミックスキルを楽しく学ぶお手伝いができるよう尽力していきたくと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

## 田中さん（理学療法学専攻）が口述発表

第13回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会在3月18（土）、19日（日）に埼玉県大宮市で開催され、今春リハビリテーション学科理学療法学専攻を卒業し、株式会社麻生飯塚病院に就職した田中志穂さんが口述発表をしました。発表タイトルは「温熱プレコンディショニングによるcisplatin尿細管細胞傷害に果たすオートファジーの応答」。

田中さんは3年次のときから取り組んできた全身温熱プレコンディショニングによるシスプラチン誘発性腎障害の軽減機序のひとつの可能性として、ラット尿細管細胞を使った温熱プレコンディショニングが細胞内環境を改善するとともに、シスプラチンに対するオートファジー応答を良好なものにすることを発表しました。

田中さんは「学会の緊張感のある雰囲気を感じながら臨むことが出来ました。就職後も学会発表には積極的に参加したいです」と意欲的に話してくれました。（入試・広報課）

日本腎臓リハ学会学術集会



学会後、学会看板前で記念撮影をする田中さん

## 理学療法士、助産師、保健師は全員合格

## 国家試験実績

国家試験の合格者が3月23、24日の両日、相次いで発表されました。今春卒業した本学学生は、理学療法士試験で受験した41人全員が合格。19人が受験した助産師試験と20人受験の保健師でも合

格率100%を維持しました。臨床検査技師、看護師、作業療法士、言語聴覚士の各試験では、全員合格こそありませんでしたが、いずれも全国平均を大きく上回る結果となりました。（NL編集部）

	R5年（全国平均）	本学合格者数/受検者数	前年（全国平均）
臨床検査技師	89.9%（77.6%）	89人/99人	85.6%（75.4%）
看護師	99.2%（90.8%）	120人/121人	100%（91.3%）
理学療法士	100%（87.4%）	41人/41人	85.1%（79.6%）
作業療法士	91.9%（83.8%）	34人/37人	97.4%（80.5%）
言語聴覚士	83.3%（67.4%）	35人/42人	92.5%（75.0%）
助産師	100%（95.6%）	19人/19人	100%（99.4%）
保健師	100%（93.7%）	20人/20人	100%（89.3%）



# 学生47人 心電図検定3、4級合格

## 医学検査学科 有言実行 原口講師は1級挑戦実る

医学検査学科の原口実紗講師が、1月14、15日に実施された日本不整脈心電学会の心電図検定1級に合格。さらに受検を呼びかけた学生47人（3級4人、4級43人）も合格しました。

飯伏羲弘教授とアクティブアカデミーを使い、学生に心電図講座への参加を呼びかけ、夏休み後半に講義と問題演習を計3回実施。毎回40人前後の学生が参加しました。

「学生に声をかけ実施するのは、初めての試みで、何人集まり、何人受検するのかわからず不安でした」と語る原口講師でしたが、臨地実習中に受検した3年生（現4年生）たちは、実習先で受検する技師と一緒に心電図について学び合うことができたことが合格に繋がったそうです。

また、自身の合格については、「昨年4月に週刊NEWSLETTERで公言してしまったので、プレッシャーを感じましたが、合格報告ができ、ホッとしています。1級になると、より臨床の現場に近い疾患や病態、薬についての知識が問われます。そのため、受検直前は自身のことで手いっぱいでした」と語りました。

今後については、「学生の指導に専念」と語り、「学生に心電図の理解を深めてもらい、心電図検定合格者数の増加や国家試験の心電図指導にも取り組みたい」と語りました。今年も夏休みにも対策講座を実施する予定です。（入試・広報課）



合格証書とバッジを手にする原口講師（前列左から4人目）と学生たち。最後列左から2人目は飯伏教授

写真左は養成講座に参加したピア・サポーターとプチ・サポーターの学生たち。同右は履修登録相談会で、新入生の対応をするピア・サポーターたち



## ピア・サポ始動 自覚と誇り胸に新入生に寄り添う

ピア・サポーター養成講座が3月30日（金）、150IM講義室であり、ピア・サポーター49人、プチ・サポーター46人が参加しました。

今回は「ピアとレスキューの違い、コミュニケーションスキル（気持ちに焦点づけたきき方）、課題解決のスキル」という3つのテーマについてグループワークを行いました。講座終了後、檜原センター長が受講者に委嘱状を授与し「ピア・サポーターに助けられた学生はたくさんいます。今後の活動に期待しています」と、激励しました。また、竹屋学長からは「これから対面での行事が増えます。人と話すことの大切さを感じながら活動して

ください」と呼びかけ、学生たちはピア・サポーターとしての自覚と誇り、活動への決意を新たにしました。

受講生たちは早速、4月3～6日に開催された新入生オリエンテーションに臨み、アイスブレイクやキャンパスツアー、健康診断でサポート活動を行いました。昼休みにはキャンパステラスで履修登録相談会を開催し、多くの来場者がありました。ピア・サポーターたちは1年生の不安や緊張を和らげながら、丁寧に対応していました。養成講座の内容が早速活かされたと思います。

（学生相談・修学サポートセンター）

◆新入生クラブ紹介4年ぶり対面実施 新入生クラブ紹介が6日（木）、アリーナで実施され、30クラブがブースを設けPR合戦を繰り広げました。新入生クラブ紹介が対面で実施されるのは4年ぶり、開始時間前からアリーナ前には行列ができるほど新入生が集まりました。ステージでは、吹奏楽部の演奏やmimicのダンスも披露されました。（入試・広報課）



お花サークル「あいうえおランド」のブースを訪れた新入生たち

番組スタッフがレストランで新入生に語りかける



◆新入生歓迎会をTV中継 新年度を迎えた本学の様子が4月6日（木）にテレビ熊本の情報番組「英太郎のかたらんね」の中で2度にわたり生中継されました。番組開始早々、約8分間にわたり、レストランで行われていた医学検査学科の新入生歓迎会の模様を入試・広報課職員の案内で紹介。番組中盤にもカメラがレストランに入り、番組スタッフがテラス席で歓談していたリハビリテーション学科の新入生たちに最近うれしかったことや恥ずかしかったことなどを聞いていました。（入試・広報課）

### 注意一生、けがも一生

私の人生はけがと失敗の連続です。

【私のけが年表】

- ◎小学6年生 野球肘→3カ月間ギプス固定
- ◎中学1年生 野球肘（遊離軟骨除去、関節クリーニング手術）  
→術後3カ月ギプス固定
- ◎中学2年生 友人と戯れて尾てい骨骨折→低反発クッション持参で2カ月登校  
ランニング中に顔面から転倒→唇付近を4針縫合
- ◎中学3年生 川で足がつりおぼれかける→500円ほど下流に流され無事救出される  
野球のピッチングマシンに指が挟まり危うく切断しかける  
→3針ほど指を縫合
- ◎高校1年生 試合前のノック中に顔面にボールが直撃→歯が1本折れる  
野球肘（遊離軟骨除去、脛の骨を肘に移植）→全治8カ月
- ◎高校3年生 肘に埋め込まれたボルトの除去手術
- ◎社会人2年生 道端で意識を失い顎が割れる、歯が折れる  
→1カ月弱入院、歯は長い目で治療

たくさんけがをしたせいで、左肘は伸びず曲がらず、皮膚は複数箇所がケロイド、割れた顎は今もボルトで固定と散々です。未然に防げたけがもあるので、落ち着いた生活を送ろうと思います。



入試・広報課

隈部 拓朗さん



### インフォメーション

週間行事予定（4月15日～21日）

4 / 15（土）

4年生保護者会